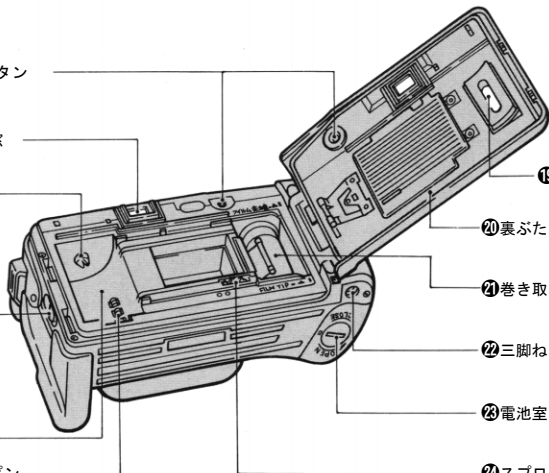
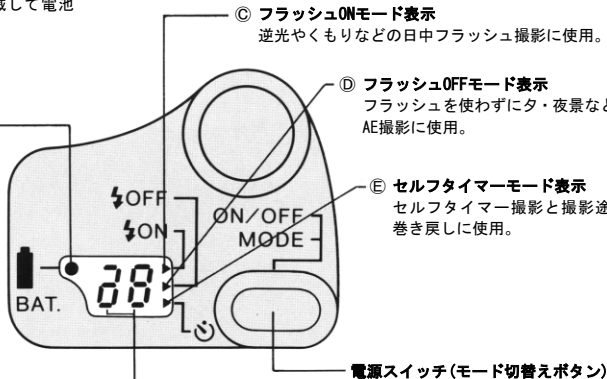
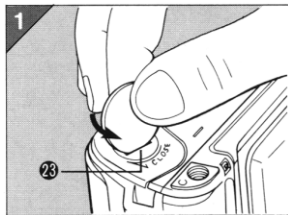
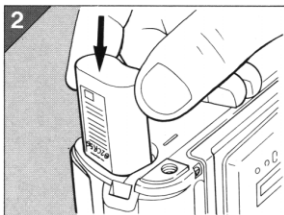
Konica

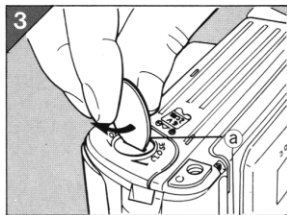
使用説明書

現場監督DD

各部の名称

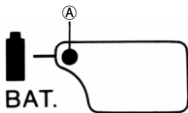
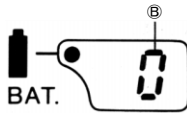
❶撮影表示パネル
❷シャッターボタン
❸電源スイッチ
（モード切替えボタン）
❹ストラップ取付け具
❺グリップ
❻レンズ
❼AE受光窓
❽セルフタイマーランプ
❾採光窓
❿フラッシュ
⓫ファインダー窓
⓬オートフォーカス窓
Konica
KONICA LENS
40-60mm

⓭T/Wレンズ切替えボタン
⓮ファインダー接眼窓
⓯巻き戻し軸
⓰裏ぶた
開放ノブ
⓱パトローネ室
⓲フィルム感度検知ピン
⓳フイルム確認窓
⓴裏ぶた
㉑巻き取りローラー
㉒三脚ねじ穴
㉓電池室カバー
㉔スプロケット
OPEN
FILM TIP

各部の名称（撮影表示パネル）

1．まず電池を入れてください　このカメラは、電池がないと作動しません。

1) 電池室カバー㉓の溝にコインなどを当て、OPENの矢印方向に回してカバーをはずします。

2) 電池を正しく入れます。

＊　電池はリチウム電池2CR5(6ボルト)を1コ使用します。

3) 電池室カバーをはめ、1)と逆の要領でCLOSEの矢印方向に回して閉じ電池室カバーの溝を指標ⓐに合わせてください。

＊　撮影中に電池を取り出すとフィルム枚数計が正しく作動しなくなることがあります。

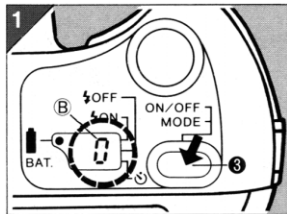
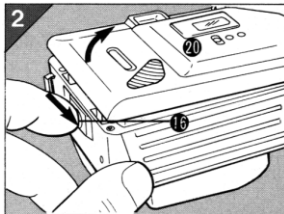
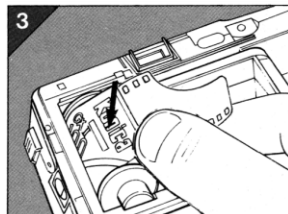
電池セット時の撮影表示パネル

電池なし時、電圧低下時、誤セット時······表示なし

新しい電池を正しくセットしたとき·····電池マークⒶが点灯

電源スイッチONで、フィルム枚数計Ⓑの“0”が点灯

電池交換の時期

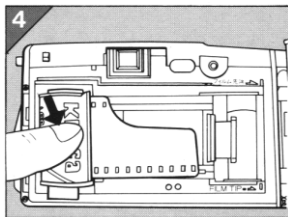
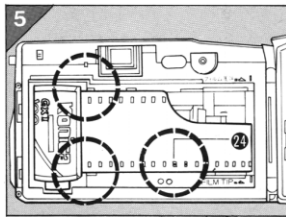
撮影表示パネルの電池マークⒶが点滅を始めたら､電池が消耗した合図ですから、同じタイプの新しい電池と交換してください。

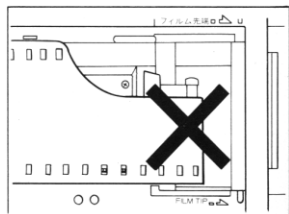
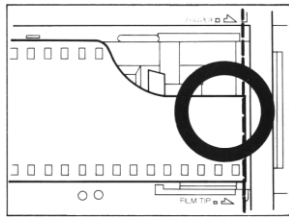
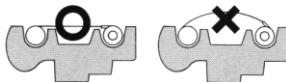
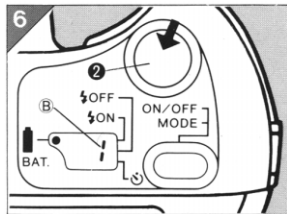
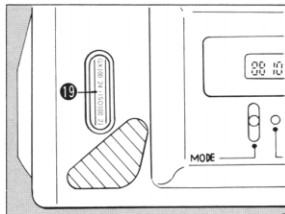
* 電池交換は電源OFFにしておこない､交換後電源ONにしてパネルの表示が点灯することを確認してください。電源ONのままでは新しい電池を入れても点滅が消えないことがあります。
* 万一、撮影中に電池マークが消えて白くなりシャッターがきれなくなったら途中巻き戻しをしてください。
* **撮影途中で電池マークが点滅したら、最後まで撮影をしたあと電池を交換してください。**

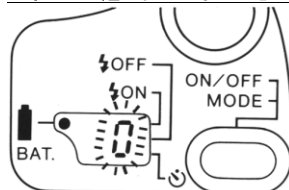
2．フィルムを入れてください

1) 電源スイッチ(モード切替えボタン) ❸を押して電源ONとし、フィルム枚数計Ⓑに 0 を出します。

2) 裏ぶた開放ノブ⑯を押し下げ、裏ぶた⑳を開けます。

3) フィルムを入れます。

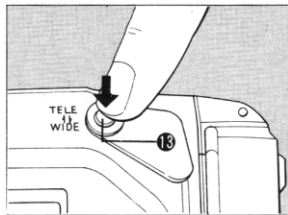
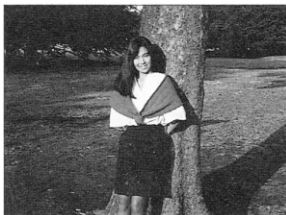
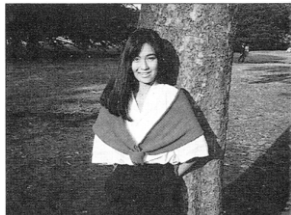
フィルム感度について

このカメラは、DXコードの付いたパトローネ入り35mm(135)フィルムを使用します。フィルムの感度(ISO50-3200)は自動的にセットされます。

* DXコードのないフィルムは、すべてISO100に設定されます。

4) パトローネ(フィルムの容器)を指で押さえ、フィルムが平らに出るようにします。

5) フィルム先端をカメラ内部のマーク(■▲▮)に合わせ、フィルムのパーフォレーション(送り穴)がスプロケット㉔(送り歯車)の歯にかみ合っていることを確認して、裏ぶたを閉じます。

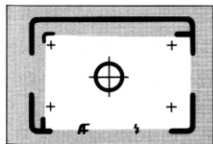
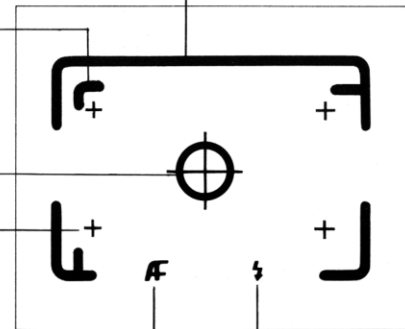
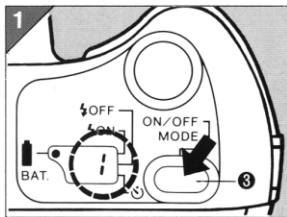
* フィルム先端をマークよりあまり奥にセットしないでください。

6) シャッターボタン❷を押します。フィルムは１枚目の位置まで自動的に送られ、撮影表示パネルのフィルム枚数計Ⓑに 1 が出ます。

＊ フィルム確認窓⑲を見れば、フィルムが入っているかどうか一目でわかります。

フィルムが送られていないときは

フィルムが正しく入っていないと、フィルム枚数計が 0 のまま点滅します。フィルムを入れ直してください。

3．撮影レンズを選んでください

1) 電源をONにしてＴ/Ｗ切替えボタン⑬を押すと、レンズがＷ(広角)からＴ(望遠)へ、もう一度押すとＴからＷへと交互に切替わります。
2) ファインダーの視野も、レンズの切替えに連動して変わります。

WIDE(広角)

TELE(望遠)

同じ位置から撮影

4．ファインダーの見方

撮影範囲フレーム
このフレームの範囲内が実際に写ります。
近接修正マーク
至近距離0.9mのときは、このマークの
内側が写る範囲になります。
オートフオーカスフレーム
ピントを合わせたい被写体をこのフレームに
完全におおうように入れて撮影してください。
パノラマ撮影指標(＋)
長い被写体を分割して撮影するときに使用します。
緑ランプ(AF)
(AE/AFロックと
近距離警告)
赤ランプ(ϟ)
(フラッシュ切替えと
低輝度警告)

5．いよいよ撮影です

1）電源スイッチ❸を押して、電源ONとし、枚数計の数字を確認してください。

＊ このカメラは電池のムダな消耗を防ぐため、**15分間経過すると自動的に電源OFFとなり、**フィルム枚数計の数字が消えます。

2）ファインダー接眼窓⓮をのぞいて、ピントを合わせたい被写体がオートフォーカスフレームをおおうように中央に入れます。

3）シャッターボタン❷を半押しすると、シャッと音がして緑ランプ（AF）が点灯し、ピントが合った上でピント位置が固定されたことを示します。

シャッターボタンについて

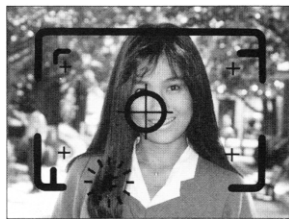
このカメラのシャッターボタンは、2ステップ方式を採用しています。

ステップ1：シャッターボタンを半押しすると、シャッと音がしてAFとAEがロックされます。

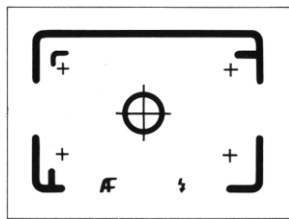
ステップ2：さらにシャッターボタンをいっぱいに押し込むと、シャッターが開閉して撮影が終了し、フィルムが1コマ分巻き上げられます。

＊ ステップ1で音がしても、シャッターはまだ作動していませんからご注意ください。

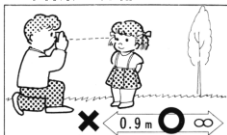
4) シャッターボタンをさらに深く静かに押し込むとシャッターがきれ、同時にフィルムが１コマ分自動的に巻き上げられます。

＊ 撮影が終わると、フィルム枚数計が1コマ進みます。

シャッターボタン半押しで、緑ランプ（AF）が点滅したときは：

被写体が近過ぎてピントが合わないという警告で、**シャッターがロックされます**。もう少し離れて写してください。

オートフォーカス窓⑫に泥やほこりなどが着いていると、正しく測距しない場合があります。もし汚れたら、清潔な布でキズをつけないように拭きとってください。

シャッターボタン半押しで、緑ランプ（AF）と同時に、赤ランプ（⚡）が点灯したときは：

AE撮影では暗すぎるので、フラッシュ撮影に切替わったことを示します。

日中撮影の距離

6．正しい構え方

カメラ背部を頬に当て、両ヒジを軽くしめると安定します。
両ひじを開くとカメラぶれをしやすくなります。

タテ位置のフラッシュ撮影ではフラッシュを上に構えます。
フラッシュを下にして発光すると写真が不自然になります。

＊ 指や毛髪などがレンズやオートフォーカス窓、AE受光窓をジャマしないように気をつけて構えましょう。

7．フォーカスロック撮影（被写体を画面からはずして写したいとき）

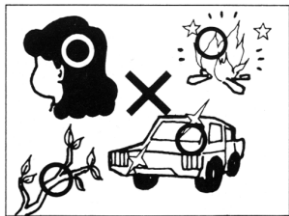
1) オートフォーカスフレームに、ピントを合わせたい被写体をおおうように入れます。

2) シャッターボタン❷を半押しすると、シャッと音がして緑ランプが点灯し、ピントが合った上でピント位置が固定されます。

＊ フォーカスロックと同時にAEもロックされます。

3) 半押しのまま構図を決め直し、シャッターボタンを深く押して撮影してください。オートフォーカスフレームのなかに被写体がなくてもピントが合います。

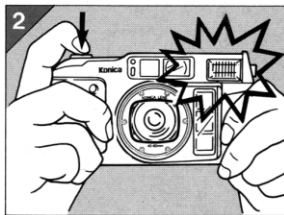
＊ 半押しした指を離すと、フォーカスロックは解除されやり直しができます。

＊ フォーカスロックをした後、被写体までの距離を変えると、ピントが合わなくなります。

オートフォーカスが正しく働きにくい被写体

等距離にある、測距しやすいものに向けてフォーカスロックして撮影してください。

- ガラス越しの撮影は、フォーカスロック撮影も有効ですが、カメラをガラスに密着させるか、ガラスに対して斜めから写せば正しい測距ができます。

8．フラッシュ撮影(自動切替え)

1) 室内など光量が少ないところでは、シャッターボタン❷を半押ししたときファインダー内の赤ランプ(⚡)が緑ランプ(AF)とともに点灯し、フラッシュ撮影に切替わったことを示します。

2) シャッターボタンを、そのままいっぱいに静かに押し下げてフラッシュ撮影をします。

＊ フラッシュ撮影後､約3秒間赤ランプ(⚡)が点灯した後消えますが、これは充電中であることを示すもので、この間シャッターはきれません。

フラッシュ撮影の距離範囲

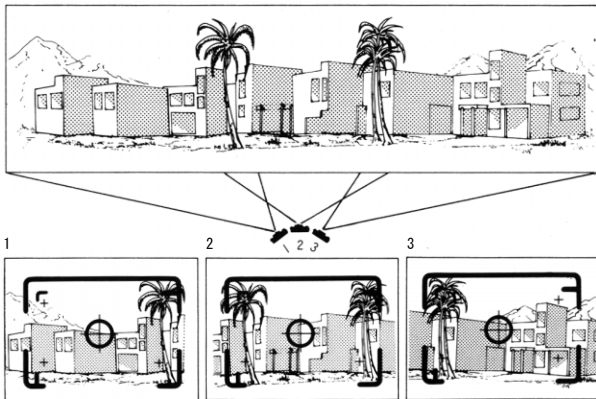
フィルム感度によって、フラッシュ撮影の距離範囲が下表のように変わります。(ネガカラーフィルムの場合)

	フィルム感度	撮影距離範囲
WIDE	ISO 100	0.9m～ 5 m
	ISO 400	0.9m～10m
TELE	ISO 100	0.9m～ 4 m
	ISO 400	0.9m～ 8 m

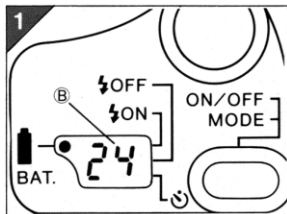
９．パノラマ撮影指標（＋）の使い方

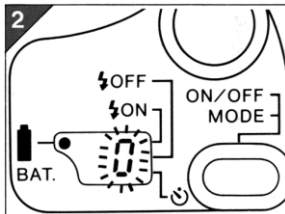
ビル建築物や橋梁など大きな長い被写体の記録撮影は、１カットでは収まらないため、カメラを回したり平行移動して数カットに分けて写し、プリントでつなぎ合わせる方法がとられます。（パノラマ撮影）

ファインダーフレーム内の４ヵ所の＋指標を、パノラマ撮影時の境界を決める目安にすれば、正しいフレーミングによって連続写真を手際良くつなぎ合わせることができます。

＊ パノラマ撮影には、三脚をお使いください。

横に長い建築物を数カットに分けてパノラマ撮影するときは…

左から右にカメラを回して写す場合、まずファインダー内の右側の＋指標が、被写体のどの位置にあるか目標物を決めておき、２カット目はその目標物を左側の＋指標に合わせてフレーミングします。以下同じ要領で写せば、きれいにつなぎ合わされたパノラマ写真が得られます。縦に長い被写体の場合も同様です。

10. フィルムの取り出し方

1) フィルムが最後になると自動的に巻き戻しが始まり、巻き戻しが完了すると、自動的に停止します。

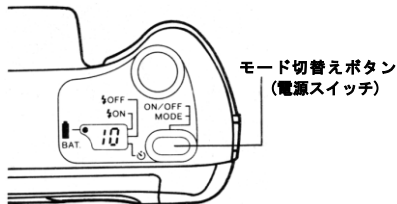
＊ 巻き戻し中、フィルム枚数計Ⓑは巻き戻しに連動して減算し、終了時には0に戻り点滅します。

2) 巻き戻しが停止したら、フィルム枚数計の0が点滅していることを確認した上で、裏ぶた⑳を開け、フィルムを取り出してください。

＊ 安全のため、巻き戻し中および巻き戻し終了時にはシャッターがロックされます。

応用撮影

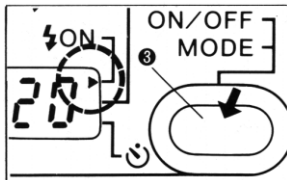
このカメラはモードを切替えて、日中フラッシュ撮影、夕・夜景の撮影、セルフタイマー撮影などができます。

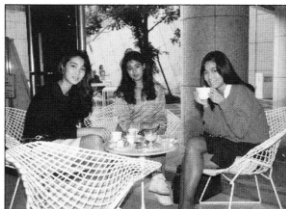
モード切替えについて

モード切替えボタンは一度押すごとに、6つのモードを循環します。

＊ モード４で普通にモード切替えボタンを押すと、モード６になります。

＊ どのモードも15分経過すると電源OFFモードに戻ります。

1. 日中フラッシュ撮影(フラッシュONモード)

逆光や室内窓際、くもりや日陰の被写体には、日中フラッシュ撮影が効果的です。近景も遠景も共に明るくきれいに写せます。

1) モード切替えボタン❸を1回押すと、撮影表示パネルに現われた▶印が ON を指し、フラッシュモードになります。

2) 普通のフラッシュ撮影と同様に撮影してください。明るいところでもフラッシュが発光し、日中フラッシュ撮影ができます。

フラッシュ撮影

フラッシュなし

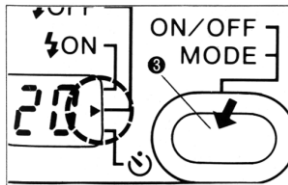
3) 1カット撮影すると、一般撮影モードに自動復帰します。連続して日中フラッシュ撮影をしたいときは、モード切替えボタンを押し直してください。

スローシャッターシンクロ

フラッシュONモードでは、AE露出のなかでフラッシュが発光します。従って、くもり日や夕方、都会の夜など周囲がうす暗いときにはスローシャッターシンクロとなり、近い被写体はフラッシュで周囲の情景はAEで、共に明るく写すことができます。(自動切替えのフラッシュ撮影では、遠景が真っ暗になります。)
例えば、うす暗い日に建築許可表示板などをこの方法で写すと、バックの建物を同時に写し込むことができます。

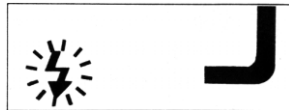
* スローシャッターシンクロではカメラぶれをしやすいので三脚をご使用ください。

2．タ、夜景のAE撮影(フラッシュOFFモード)

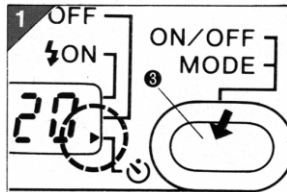
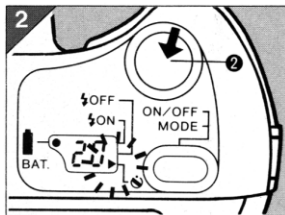
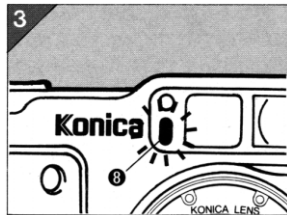
このカメラは暗い場所でのAE撮影が可能です。フラッシュを使わずに、1/5秒までのスローシャッターによる夕景や都会の夜景など、雰囲気のある撮影ができます。

1) モード切替えボタン❸を２回押すと、撮影表示パネルの▶印が⚡OFFを指し、フラッシュOFFモードになります。

2) 日中撮影と同様に普通に撮影してください。暗いところでもフラッシュは発光せず、AE撮影ができます。

＊ スローシャッターでカメラぶれのおそれがありますから、三脚をご使用ください。

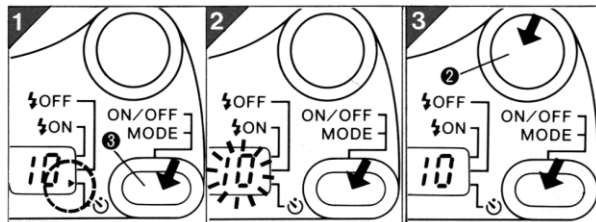
3) １カット撮影すると、一般撮影モードに自動復帰しますから、連続してフラッシュなしの撮影をしたいときは、モード切替えボタンを押し直してください。

＊ シャッターを半押ししたとき、赤のフラッシュランプ(⚡)が点滅したら、暗すぎて露出不足のため写真が暗くなるという警告です。

3．セルフタイマー撮影(セルフタイマーモード)

記念撮影などで自分も画面に入りたいときは、セルフタイマー撮影をしてください。

1) モード切替えボタン❸を３回押すと、撮影表示パネルの▶印が◎を指し、セルフタイマーモード になります。

2) ここでシャッターボタン❷を押すと、▶印が点滅を始めセルフタイマーがスタートしたことを示します。

3) スタートと同時にカメラ正面のセルフタイマーランプ❽が点灯し約10秒後にシャッターがきれます。セルフタイマーランプは約7秒間点灯した後約3秒間点滅に変わります。

4) １カット撮影すると、一般撮影モードに自動復帰しますから、連続してセルフタイマー撮影をしたいときは、モード切替えボタンを押し直してください。

* セルフタイマーのスタートは、カメラのうしろ側から操作してください。カメラの前からではシャッターがロックされてしまいます。
* セルフタイマー撮影では、三脚のご使用をおすすめします。
* セルフタイマー撮影は、一般撮影モードで撮影されます。フラッシュは自動発光し、シャッターボタン半押しで、フォーカスロック、AEロックもできます。
* セルフタイマー作動中にキャンセルしたいときは、シャッターボタン❷を押してください。

4．撮影途中の巻き戻し（途中巻き戻しモード）

1) モード切替えボタン❸を3回押して撮影表示パネルの▶印を🕓(セルフタイマーモード)に合わせます。

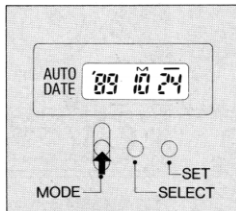
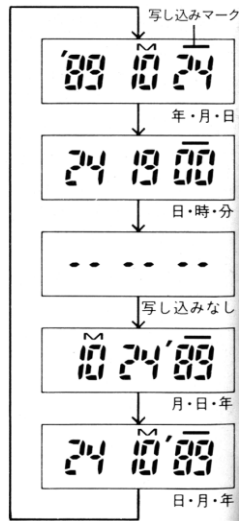
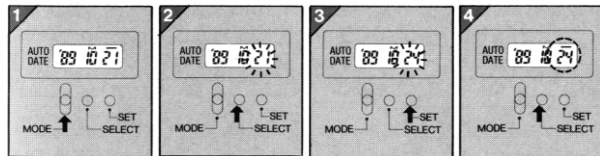
2) さらにモード切替えボタンをもう一度押すと▶印が消え、**そのまま押し続けるとフィルム枚数計が点滅を始めます。**

3) モード切替えボタンを押したまま、シャッターボタン❷を同時に押すと、途中巻き戻しモードとなりフィルムが巻き戻されます。

＊ 始動したら指を離しても終わりまで巻き戻されます。

オートデートの使い方（オートデート付のみ）

このカメラのオートデートは、2019年12月31日までの日付・時刻を記憶し、自動的に画面に写し込むことができます。

表示モードの切替え

MODEボタンを押して、日付・時刻・写し込みなしを選びます。

日付・時刻の調整

1) MODEボタンを押して、修正する日付または時分をパネルに表示します。

2) SELECTボタンを押して、修正する日付または時分を点滅させます。

3) SETボタンを押して、日付または時分を点滅のまま修正します。

4) SELECTボタンを押すと、点滅が点灯になり、━のマークが現われて写し込みの状態になります。

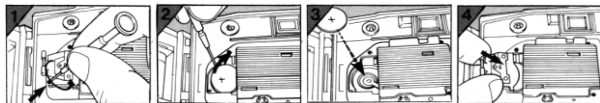
* 分を修正した後、SELECTボタンを押すと、:が点滅します。もう一度、SELECTボタンを押して、写し込みの状態にしてください。

* 秒まで合わせるには、:の点滅時に時報に合わせてSETボタンを押します。さらにSELECTボタンを押して写し込みの状態にしてください。

オートデート用電池について

オートデート用リチウム電池はCR2025:3Vを使用しています。およその交換時期は約4年です。デートの数字が見えにくくなったら新しい電池と交換してください。

*** 電池交換後デートを修正してください。**

オートデート用電池の交換

1) プラスドライバーで裏ぶた内側の電池室カバーをはずします。

2) 古い電池を取り出します。

3) 新しい電池の⊕を上にして入れます。

4) カバーの爪をはめ込みねじ止めします。

撮影モード切替え早見表

	モード1	モード2	モード3	モード4	モード5	モード6
表示	20 ON OFF	20 ON OFF	20 ON OFF	20 ON OFF	20 ON OFF	
名称	一般撮影モード（フラッシュ自動発光）	フラッシュON モード	フラッシュOFF モード	セルフタイマー モード	途中巻き戻し モード	電源OFF モード
機能	明るいときはAE。夕方、室内など暗い（EV9以下）ときはフラッシュ撮影に切替えられ自動発光。	明るいときも暗いときも、フラッシュが常時発光。	明るいときも暗いときも、AE撮影。フラッシュは発光しない。	シャッターボタンを押すとセルフタイマーが作動を開始し、約10秒後にシャッターがきれる。	モード4に切替えた後再びボタンを押し続けフィルム枚数計が点滅したら同時にシャッターボタンを押すと途中巻き戻しができる。	電源OFFとなり、シャッター、フィルム巻き上げなどすべての作動を停止。電源スイッチとして機能。
作動状況	撮影はモード1のまま続行される。	1枚撮影するごとにモード1に自動復帰する。		セルフタイマー作動中▶印が点滅。1枚撮影するごとにモード1に自動復帰。	フィルム枚数計が逆算し、巻き戻し完了でモーターが停止。同時に0点滅。	モード切替えボタンをもう一度押すとモード1に復帰しスイッチON。
目的用途	日中戸外のAE、夜間室内のフラッシュなど、一般撮影時に使う通常のモード。	室内窓際、逆光撮影などの日中フラッシュ撮影時、夕夜景のスローシャッターシンクロに使用。	夕夜景、室内自然光撮影など、フラッシュを使用しないスローシャッターによるAE撮影時に使用。	記念撮影、自画像の撮影などのセルフタイマー撮影時に使用。	フィルムはまだ残っているが、急いで現像プリントしたい場合などに使用。	カメラを長時間使わないときのモード。15分間放置すると、すべてモード6になり電池の消耗を防ぐ。
	14、18ページ	22ページ	23ページ	24ページ	25ページ	8ページ

おもな仕様

形式	レンズシャッター式AF全自動生活防水35㎜カメラ
画面サイズ	24×36㎜
レンズ	2焦点式コニカレンズ、40㎜F3.5(3群3枚)、60㎜F5.2(6群6枚)、レンズ前面に防じんガラス
シャッター	絞り兼用プログラム電子シャッター1/5秒～1/500秒、電磁レリーズ
ファインダー	採光式ブライトフレーム透視ファインダー、オートフォーカスフレーム、近接修正マーク(0.9m)、パノラマ撮影用＋マーク、測距完了表示、近距離警告、フラッシュ発光表示、フラッシュ充電中表示、低輝度連動範囲外警告
焦点調節	赤外線ノンスキャン・アクティブ式自動焦点、撮影距離：0.9m～∞　フォーカスロック可能
AE調整	CdS受光素子使用プログラムAE、中央重点測光
AE連動範囲	ISO100：f=40㎜EV6(F3.5・1/5)～EV17(F16・1/500)、f=60㎜EV7(F5.2・1/5)～EV17(F19・1/360)
フィルム感度	自動設定（ISO50～ISO3200）
フィルム給送	電動式、シャッターボタンスタートのオートローディング、自動巻き上げ、フィルム終了でオートリターン、巻き戻し後自動停止、途中巻き戻し可能
フィルム枚数計	順算式、液晶表示
セルフタイマー	電子式、作動時間：約10秒、セルフタイマーランプが7秒間点灯した後3秒間点滅、途中解除可能
フラッシュ	手振れ限界輝度時に自動発光するフラッシュマチック機構、連動範囲(ISO100)：0.9～5m、発光間隔：3秒以下
撮影モード	一般撮影(フラッシュ自動発光)→フラッシュON→フラッシュOFF→セルフタイマー→〔途中巻き戻し〕→電源OFFの6モードを循環、液晶表示
オートデート	液晶表示デジタルウォッチ内蔵　2019年まで年月日・日時分・写し込みなし・月日年・日月年の切替え
撮影可能本数	50%フラッシュ発光のとき：約40本(24枚撮りフィルム)
電源	リチウム電池(2CR5：6V)1コ　オートデート用としてリチウム電池(CR2025：3V)1コ
生活防水	種類・JIS保護等級4(防沫形)　意味・いかなる方向からの水の飛沫を受けても有害な影響のないもの　試験・300～500㎜の高さで鉛直から180度の範囲にじょろ口で10ℓ/minの水量を機材の外郭表面積1㎡当たり1分間で合計5分間以上散水
大きさ・重さ	144×74×74㎜　385g(電池別)

●上記の性能については当社試験条件によります。　●製品の仕様、外観は予告なく変更することがあります。